

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立江戸小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

| 主として「知識」に関する問題(A)   | 主として「活用」に関する問題(B)   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul> |

#### (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

| 本年度の結果 | 国語A   |       | 国語B   |       | 算数A   |       | 算数B   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 11.0  | 74    | 5.1   | 57    | 11.6  | 77    | 4.9   | 44    |
| 全国     | 11.2  | 75    | 5.2   | 58    | 11.8  | 79    | 5.1   | 46    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

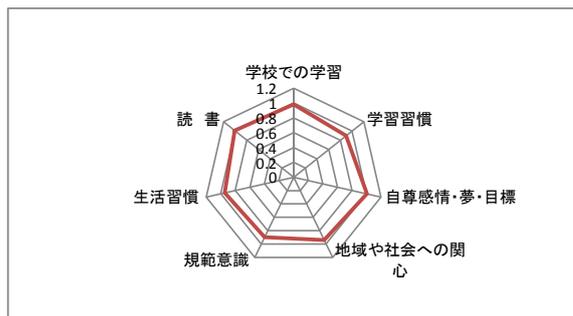
|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率が全国平均より6ポイント下回っている。話す・聞く能力・書く能力は全国平均並みかやや上回っていたが、読む能力・言語についての知識・理解は、5～7ポイント下回っている。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 考えの共通点や相違点を聞き取る問題や目的や意図に応じて内容の中心を明確に書く問題の正答率は高かった。                                      |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読み取る問題の正答率が低かった。ことわざや漢字の読み書きの問題も正答率が低く、無回答率が高かった。                |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率が全国平均より4ポイント下回っている。読む・書く能力は全国平均並みであったが、話す・聞く能力は、全国平均を7ポイント下回っている。      | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 目的や意図に応じ、文章を引用して書いたり、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめたりする問題の正答率が全国平均より高かった。 |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 話の構成を工夫して話すことや、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題の正答率が低かった。                     |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率が全国平均より5ポイント下回っている。数と計算の領域は全国平均並みであったが、量と測定・図形・数量関係の領域は、5～7ポイント下回っている。         | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 四則混合の整数・小数の計算や商を分数で表す問題の正答率が全校平均より8～12ポイントも高かった。                                    |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 数量関係を数直線に表したり任意単位による測定の問題の正答率が低かった。また、二次元表の表したり読み取ったりする問題の正答率は全国平均を15ポイント以上も下回っていた。 |                       |

|     |             |   |                       |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率が全国平均より7ポイント下回っている。すべての領域で全国平均を下回っていたが、特に図形・数量関係の領域は大きく下回っている。               | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|     | よくできた問題     | 直線の数とその間の数の関係に着目して、問題場面に適用する問題や、仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題の正答率が高かった。               |                       |
|     | 努力が必要な問題    | 示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るか選んだり、割合を比較する目的に適したグラフを選んだりする問題の正答率が特全国平均を大きく下回っていた。 |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析  |
|---|
| <p>学校での学習では、授業のめあてをつかみ、学習内容を振り返る活動はよく行えているが、話し合い活動によって、自分の考えを深めたり、広げたりすることに苦手意識をもつ児童が多く、話し合い活動の充実が課題である。また、総合的な学習の時間の学習活動の見直しをはじめ、児童が主体的に学習に取り組む力を見つけさせる必要がある。家庭学習については、宿題は確実にしている児童の割合が高いが、計画的な自主学習が十分には行われていない。</p> <p>生活習慣では、朝食を毎日食べている、同じくらの時刻に寝ている児童の割合が全国平均よりは5ポイントほど低くなっている。自分や学校・社会への意識に関しては、自分によいところがあると思う、将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合は全国を上回っているが、学校のきまりを守っているという規範意識が低い。</p> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の中で「話し合う活動」を位置付け、児童が自分の意見を筋道立てて話したり、(資料を基に)根拠を明らかにして説明したりすることができる指導に努める。  
総合的な学習の時間の部会を適宜開き、育てたい資質・能力、概念的知識の系統性、指導計画等についての再度の見直しを行ったり、研修会を位置付けたりして、総合的な学習の時間の授業改善を図る。朝自習の時間を利用しての計算・漢字タイムでは、担任だけでなく管理職や支援加配も加わり個人指導を徹底し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

学力・体力に関する本校児童の実態や指導の方向性について、通信を発行したり、懇談会などで周知したりすることで、保護者との共通理解を図り、家庭学習・家庭生活習慣の改善を図る。